

新聞記事を読んで考えてみよう。②

あなたは何人ですか？



私たちの世界は多様化している。国境を越えて今ほど多くの人々が行き来する時代がかつてあったのだろうか。仕事で、観光や留学で、あるいは、戦火や貧困を逃れて生き延びるために。現代は様々なルーツを持つ人々が共存する時代だ。それは日本も変わらない。外国にルーツを持つ人

を見かけることは、日常でも珍しくなくなった。今年のラグビー・ワールドカップでは、多くの外国出身選手を含む日本代表に国中が沸いた。2020年の東京五輪には世界からたくさんの人たちがやってくる。そんな今だからこそ考えたい。そもそも「〇〇人」とは何なのか。

顔で思った「どこの国の人間」

英ロンドンの劇場街ウエストエンドの舞台に立つ夢を追った。昨年10月からロンドンに留学しています。僕は本当に英語ができませんでした。演劇のレッスンのかたわら、語学学校に通いました。振り分けられたのは最下級の下から一番目のクラス。3カ月はまともに会話もできなくて、一時はうつ病のようになっただけでした。

日本では、僕が英語がしゃべれないと知るよすがが起きませんでした。通った学校でも、テレビ番組でも、自分が日本人だと思っていた僕にとって、その笑いはある種なぞで、皆が楽しんでいるように見えて、全然違う。笑はしなかった。

ロンドンに来て、日本人の友人から差別を受けたという話を聞きまして。僕は一度もそんな差別にあつたことがない。こんな顔だからです。それで、思った。あれ、僕ってどこの国の人間なんだ。いまもその感



ロンドン中心部のヒザリーサーカス、末盛栄代撮影

タレント ウエンツ瑛士さん

1985年、東京都武蔵野市生まれ。父はドイツ系米国人、母は日本人。4歳からモデル活動を始め、映画やドラマ、バラエティーで活躍。映画「ゲゲゲの鬼太郎」や舞台「スコット&セルダ」で主演。2018年10月から、演劇を学ぶためロンドンに留学中。

多民族社会 モデルはラグビー日本代表

しかし、国籍だけで人々の帰属意識が左右されるわけではありません。民主主義は、そのメンバーの間で平和や繁栄とともに苦勞や犠牲を共有しているという仲間としての感情的な絆がなければ機能しませんが、投票すればいつも負けることを決まっている少数派は

秋に日本で開催されたラグビー・ワールドカップの日本代表は今後のモデルになります。民族的なパルクランドが違い、日本国籍を持っていない人もいます。それが一丸となつて、APTANを代表しました。リーチ・マイケル選手のように仲間として日本のチームに加わる人が増えることに、抵抗感があるとは思えない。

また、国籍とは、人ごとの国家に帰属するかを明らかにする制度です。日本のような民主主義国では、国民という正式な国家のメンバーを確定する意味もありません。主権国家体制がなくならない限り、その意義の重さは変わらないでしょう。国境を越えた移動が盛んになると、国籍や民族的アイデンティティが異なる人が国内に増えることになり、日本にも必ずそれに相当数の移民がいます。魅力的な国であるほど、新しい人が来るのを止められないでしょう。多様なアイデンティティを持つ人々をうまくやっていくかがありませ

不満を持ち、分離独立や他国に帰属する恐れがある。例えは、2017年6月にロンドン中心部で起きたテロ事件では、英国籍のパキスタン出身者が容疑者と特定されました。容疑者は過激派組織「イスラム国（IS）」に傾倒しており、英国人を仲間とは思っていなかったのでしょう。そうならないためには、多数派の日本人と新たに加入したメンバーを仲間として包摂する新しい日本のアイデンティティをつくっていくことが必要ではないでしょうか。



日経新聞撮影

慶応大教授 田所昌幸さん

1968年生まれ、専門は国際政治経済学。防衛大教授などを経て現職。著書に「越境の国際政治」「国際政治経済学」など。

外国人はますます身近な存在に



記事から、日本人の多様化はますます進むと思われませんが、

このことについて、「賛成」ですか「反対」ですか？

自分の考えを書いてみよう。